

平成29年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1492400021	事業の開始年月日	平成18年9月1日
		指定年月日	平成18年9月1日
法人名	株式会社 へいあん		
事業所名	グループホーム「へいあん小和田」		
所在地	(〒253-0012) 茅ヶ崎市小和田3-3-25		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	9名
		ユニット数	1ユニット
自己評価作成日	平成30年2月19日	評価結果 市町村受理日	平成30年6月15日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>ご入居者様、お一人お一人に合わせた支援方法を見出し、安心して過ごせるための、やすらぎの空間をご入居者様とスタッフで作りに上げていきます。</p> <p>近年、ご入居者様の重度化が顕著となり、スタッフの介護スキル向上、及び身体機能が重度化しても安心して生活できる環境作りに努めています。 看護師、主治医との連携、重介護に対応できる介護用品等、環境面でも重度化に対応できる準備を進めております。また、「看取りケア」体制も整えております。</p>

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益財団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23 日土地山下町ビル 9階		
訪問調査日	平成30年3月20日	評価機関 評価決定日	平成30年6月18日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>【事業所の概要】 この事業所は、JR東海道線辻堂駅よりバスで3分、又は徒歩で10分ほどの住宅地にある。事業所の1階は、同法人のデイサービス、居宅介護支援事業所があり、2階が1ユニットのグループホームとなっている。法人は、冠婚葬祭事業に加えて、30年前より介護事業に参入し、湘南地区を中心に地域の介護を支えている。</p> <p>【看取りケアの体制を整える】 事業所は、開所して数年の間は、看取りケアは行わない方針であった。しかし、開所時から入所している利用者の重度化に伴い、家族からの「住み慣れた場所で最期を迎えさせたい」という要望と、職員らの「利用者を最期まで支援したい」という思いにより、看取りケアを行う体制を整えてきた。看護師は職員として配置され、毎月のミーティングに出席し、看取りケアの研修も実施している。看取りのケアプランを医師と相談のうえ作成し、家族と同意書を交わしている。今年度は、2月に2名を看取った。職員は、この経験を今後活かすために、家族の協力を得て、写真と動画で、「看取り資料」を作成している。事業所は、これからも利用者と家族の要望に応じて最期まで支援していく意向である。</p> <p>【入浴を支援する】 この事業所には大きな家庭用風呂があるが、利用者の重度化により湯船に入ることが困難な方が多くなっている。そこで、座ったままの状態でも湯船に移動できるようにスライドキャッチ式リフトを設置した。その結果、半数の利用者が湯船に入ることができるようになった。入浴時間は、午前に1名、午後2名を予定している。希望により、毎日入浴している方もいる。また浴後の着替えを2着用意して、利用者に衣服を選んでもらっている。職員は、一人一人とのコミュニケーションを大切に支援している。</p>

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームへいあん「小和田」
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念と施設開設時にスタッフと掲げた行動指針を毎朝唱和。これにもとづくケアの実践を日々心がけている。	「法人理念」と事業所の「行動指針」を玄関と事務所に掲示し、毎朝の申し送りで唱和している。行動指針の中心には、「尊敬の念をもって接します」とあり、最近入社した職員にもオリエンテーション時に伝えている。職員は利用者に丁寧な言葉で接し、実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の行事等に参加できるよう、地域住民の一人としての参加意識をもっている。 夏祭りイベントへ近隣住人に参加頂いている。	自治会には、個人と事業所で加入している。毎年、事業所の職員と1階のデイサービス職員らが協力して行う「夏祭り」には、地域の住民を含めて100名以上が参加し、交流の機会となっている。1階のデイサービスに音楽のボランティアが訪れる時は、利用者も見学に行き一緒に楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所へ来所される方、電話相談や問い合わせに懇切丁寧に対応し、認知症の理解の一端を担っていると自負している。 今後は地域介護教室や認知症サポーター研修にも協力参加。		

4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>外部評価受審後の運営推進会議にて、ご家族アンケートと共に議題として取り上げている。</p>	<p>運営推進会議は、年6回開催し、家族、自治会長、民生委員、地域包括支援センター職員、市の介護保険課職員などが参加している。会議では看取りケアなどの活動報告と情報交換などを行っている。デイサービスと合同で防災訓練を実施した時は、自治会長から自治会でも応援していきたいとの言葉があった。通報機器管理会社の職員の参加により、機器の使用方法を確認することができた。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>市町村とは、利用状況・待機者情報等を毎月報告し、運営推進会議等を通して連携を密にとっている。</p>	<p>運営推進会議に、市の職員2名が交代で参加している。事故報告がある時は、電話で伝えたのち、報告書を持参している。市の相談員が毎月2名来訪し、利用者、職員と交流している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束・虐待に対するコンプライアンスルールを掲示し、これを実践している。 身体拘束に対する研修実施やマニュアル整備などを通して、スタッフへ周知している。	入社時、その後は年1回、「身体拘束・虐待について」の法人研修に参加している。7月に管理者がミーティングで「身体拘束・虐待予防・権利擁護」についての研修を行った。この事業所は施錠をしない方針であるが、現在、外出願望のある新規入居者の事故予防のために、一時的にユニットの入口を施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年一回、身体拘束虐待予防について内部研修計画を立案し、これを実践している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	上記同様。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結の際は、十分な説明を行い、疑問・不安等を解消している。また、契約書改定、重要事項説明書改正の際には、家族会を開催し、説明を行い、同意を得ている。		

10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会等を開催。その際に要望等に迅速に答えている。	家族会は年に1回実施している。今年度は3組の家族が参加し、介護保険の改正や近況報告を行った。毎月、写真入りの「便り」を作成し、利用者の様子を家族に伝えている。ご家族の「ここで穏やかに最期を迎えたい」との要望に応え、2月に2名を看取った。	
----	---	---	---------------------------	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	半年に一度のスタッフ面談、月一回の管理者会議を通して、職員の声を引出し運営に反映させている。	ミーティングは、毎月第4水曜日の夜に行い、職員の出席率は高い。新しい職員も意見が言い易いように、最初に数名でのグループワークをしてから全体ミーティングを行っている。管理者は、昼休みに職員から話を聞くなどしている。またケアマネジャーの資格を取りたいという職員の希望を尊重し、キャリアアップができるように支援している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	上記同様。 半年に一度のスタッフ面談を通して、業務評価を行い、左記の内容についてスタッフ評価、意識付け等を行っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個別研修計画を作成し、年間の内外研修計画を通して教育を実施。また、新人に対するOJTにおいては日誌やチェックシートを活用。		

14		<p>○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>グループホーム協会や茅ヶ崎市地域密着部会に所属し、研修等を通して左記の取組を実施。 また、法人内5施設において隔月のミーティングを通じた交流、情報交換、業務改善会議を実施。</p>		
----	--	--	---	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	左記内容についてアセスメントを行い、ミーティングにて情報共有を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	同上。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用開始前に、管理者と計画作成担当者がインテークを行い、利用者支援の視点で相談対応、情報共有に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	左記の視点に立って、ケア方針を作成。ケアプランに反映させ支援実施。 ※余暇時間においても、左記視点にて「花壇作り」「畑作業」等を行っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	「家族との絆を大切にする」を行動指針に盛り込んでいる通り、これを意識し実践している。 ※状況報告書をご家族に毎月送付		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	居室に馴染みの物を置いてもらうなど、入居によりそれまでの人間関係が途切れないように配慮。 リロケーションダメージの緩和に努めている。	掃除や裁縫が好きな利用者にモップ掛けをしてもらったり雑巾を縫ってもらうなど、得意とすることを継続出来るように支援している。場所の変化による不安感の軽減に努めている。友人らの来訪は少ないが、毎週訪ねて来る家族もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の人間関係はケアの大きな要素であると認識し、日常の支援において配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	来所された際にはスタッフと利用者で歓談することもあったが現在はほとんどない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	左記内容についてアセスメントを行い、ミーティングにて情報共有行っている。	職員は、「心身の情報シート」でアセスメントを行い、利用者のニーズを把握し、職員間で共有している。入浴後の着替えを2着用意し、利用者との会話を通して、自己決定できるよう支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	左記内容についてアセスメントを行い、ミーティングにて情報共有行っている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	左記内容についてアセスメントを行い、ミーティングにて情報共有行っている。 必要時は、毎朝申し送り時に小カンファレンスを実施。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当スタッフによるモニタリング記録を合わせて、ケアプラン作成に活用している。	利用者を担当する職員は、毎週ケアプランの目標が記載された個別のモニタリングシートに実施状況を記入し、それを元に計画作成担当者が毎月のモニタリングを行っている。また、毎月のミーティングで看護師の意見を聞いている。ケアプランは、通常6ヶ月で見直し、状態が変化した時は、その都度変更している。モニタリングシートを作成し、職員が介護計画作成に参加できるように改善している。		

27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>毎日、個別サービス提供日誌を記載し、左記内容に取り組んでいる。細かな情報共有には、申し送りノートに記載しスタッフ間で共有している。</p>		
----	--	---	--	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループの社内資源も活用し、左記の内容に取り組んでいる。基本的には自宅に居らっしゃる時と同じようにニーズに対応できることを旨としている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	個別に外出支援を実施し先に取り組んでいる。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当グループホームとして協力連携病院を確保しているが、これにとらわれず、病院受診は、ご本人ご家族の要望に対応できている。	現在は、利用者と家族の希望により事業所が連携する訪問医師に受診している。皮膚科などの専門医を受診する時は、原則として家族の対応であるが、職員が受診に立ち会うなどの支援をしている。訪問医師は隔週に往診し、看護師は週1回来訪している。また、3名の利用者が訪問歯科医師に受診している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人事業部内看護師・医療連携看護師との連携を図り、医療的な視点でのケアと観察を実施し、介護スタッフと情報共有を図り、必要な医療的アドバイスを受けている。看護師による看取り研修も実施している。		

32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院中も病棟へ出向き、担当看護師より病状は把握や退院支援に対応している。 また、入院加療において必要な生活情報・身体情報を家族同意を得て行っている。</p>		
----	--	--	---	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り指針を作成し、これに基づき左記に対応している。 看護師による看取り研修も実施している。	事業所に看護師を配置し、看取りケアの体制を整えて、今年度は事業所と家族、訪問医師、看護師の連携によって2名を看取った。看取り後に看護師による研修を行い、職員は振り返りの時間をもった。またこの経験を活かすために家族の協力を得て、写真と動画で「看取り資料」を作成し、今後の終末期ケアに活かして行く意向である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	採用研修において、救急対応、心肺蘇生等のスキルが身に付くよう研修メニューに取り入れている。また毎月のミーティングの際にCPR訓練を実施している。	/	/
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	基本的には、年2回避難訓練等を実施。 法人全体の取組として施設防火チェックを年4回実施。	今年度は2回防災訓練を実施し、そのうち1回は運営推進会議と一緒にしている。参加した自治会長より「地域でも協力していきたい」と伝えられている。備蓄品は、事務室と倉庫に保管し、水や食料は利用者用の3日分が法人より用意されている。また、コンロや充電バッテリー、靴、ヘルメットなども準備している。次回は、夜間想定避難訓練を行う予定である。	夜間想定避難訓練の実施を期待します。また、職員の分を含めた水や食料品の3日分を備えることを期待します。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	コンプライアンスルールを掲げ、左記内容をスタッフに周知している。	職員は、利用者の話を聞き、否定しないことを常としている。声をかける時は、原則として苗字で呼ぶが、旧姓や名前で呼ぶこともある。職員は法人主催の研修に参加している。個人情報を含む書類は、キッチンの奥にある事務室の書庫で保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ケアの実践において「傾聴すること」「待つこと」を旨とし、「後追いケア」を行い左記内容が実践できるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	同上。日々の日課を決まったものにするのではなく、その日その方の状態、ペースに合わせて過ごして頂けるよう臨機応変に対応している。 食事時間もその方に合わせた時間で提供している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの服を着て頂き、その方の普段着をそれぞれに演出してもらっている。 隔月、訪問理美容にて散髪している。		

40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事の盛り付けや後片付けを手伝って頂き、スタッフとお客様が共同作業で食事作りを行っている。</p>	<p>食材と献立は、専門業者から配達され、職員が調理している。職員は、利用者を見守りながら同じ昼食と一緒に食べている。朝食は、利用者の起床時間に合わせて提供するなど、臨機応変に対応している。寿司や鰻の出前をとることもある。誕生日には、利用者の好きな物を職員が手作りしている。ひな祭りは、ちらし寿司でお祝いし、法人から提供される打掛で写真を撮り楽しんでいる。</p>	
----	----	--	--	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一食ごとに個別に摂取量を記録し、これを観察し健康管理に配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、その方の状態に応じた口腔ケアを実施。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄介助が必要・紙パンツが必要となった方でも習慣的に出来るだけ、トイレに座って頂き自力排泄ができるようにケアしている。	車いす対応のトイレが3か所あり、その内2か所は、左右対称に手すりが設置され、片麻痺がある利用者のことも考えられている。排泄介助の必要がない利用者が1名で他の方はリハビリパンツとパットを使用している。日中はトイレでの排泄を支援している。夜間に2名の利用者のオムツ交換を定時に行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防に毎朝乳酸菌飲料を提供。その他個別に適宜、センナ茶・プルーンなどを提供。その他個別に排便状況を観察し、やむを得ない場合は主治医と相談し、緩下剤の処方・調整を行っている。		

45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>体調や生活リズムに合わせて入浴時間を調整している。入浴を強要・無理強いせず、気持ちよく安心して入浴できるよう個別に創意工夫を行っている。</p>	<p>利用者は、原則週2回入浴しているが、希望により、毎日入浴している方もいる。利用者の重度化に対応して、スライドキャッチ式のリフトを設置し、半数の方が浴槽に入ることができるようになった。浴後の着替えを2着用意し、利用者が自分で選べるように支援している。</p>	
----	----	--	---	---	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	疲れていたら居室で横になって頂く。眠れない時はリビングで過ごしてもらう等、臨機応変に対応しているが、日常生活の休息リズムにも個別に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬処方の説明書を個別ファイルに添付し、服薬情報をスタッフで共有している。また変薬の際は、申し送りノートに記載し直ちに情報共有を行っている。状態変化についても個別サービス記録に記載。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	左記内容を取り組んだケアプランの作成に努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別に散歩・買い物等の外出支援を実施。 また、屋外歩行が困難な方にもドライブや外気浴などの支援を行っている。	事業所は住宅地にあり、職員は、利用者と近くの小学校周辺を散歩したり、コンビニにおやつを買いに出掛けるなど個別に支援している。また、桜や紫陽花の名所に出掛けて季節の変化を楽しんでいる。短時間勤務の職員を採用したことにより、職員が、通院に同行する時間がとれるようになった。	

50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族に相談しながら一部のお客様において能力を勘案し実施。		
----	---	-------------------------------	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	左記については、自由に積極的に行ってもらっている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が作成した季節の飾り物などを工夫し、心地良く楽しく過ごせるよう配慮を行っている。スタッフが作成した利用者の似顔絵飾りも大変喜ばれている。	リビングダイニングは広く、テーブル席とテレビ方向にソファがある。床暖房と加湿器により快適な環境が保たれている。壁には職員の描いた利用者の似顔絵が飾られ、家族会や行事、事業所の庭に咲く植物の写真なども掲示されている。訪問時、利用者はテレビに映る懐かしい歌を一緒に口ずさみ楽しんでいた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブル配置を工夫し、左記について可能な限り配慮を行っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を持ちこんで頂き、居室については、極力制約をなくし自由に使ってもらっている。	居室には、エアコン、ロッカー、ベッド、TV配線が設置され、各ロッカーには、感染症対策グッズの袋を準備している。利用者は、冷蔵庫、タンス、三面鏡、仏壇、絨毯、カーテンなどを持ち込み、落ち着いた居室となっている。転倒の危険のある利用者の居室には、センサーマットなどを置き、転倒を予防している。	

55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	目立つように「洗濯場」などの 掲示をし、自らの役割を演出し やすいよう配慮を行っている。		
----	---	--	--	--

目標達成計画

事業所名 グループホーム「へいあん小和田」

作成日 平成30年6月1日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	Ⅲ-35-13	火災や地震、水害などの災害時に居残りを要する避難訓練を年2回実施しているがシフト上で参加できていないスタッフもいる。	火災や地震、水害などの災害時に居残りを要する避難訓練ができる方法を全職員がみにつけるとともに、地域の方々との協力体制が案げよう、夜間想定での避難訓練も年間予定の訓練として取り入れて行く。	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議を兼ねて行う事や、自治会・地域の方々へ呼びかけを行い協働体制を作る避難訓練を取り入れて行く。 ・日中の時間帯でも夜間想定とした訓練を夜勤者中心に行っていく。 	平成30年度中に実施
2	I-2-2 Ⅳ49-18	お客様の重度化により介護業務が増えること等で、個別的に外出支援などの機会が少なくなっている。	買物や外食、外気浴・イベント行事への参加等、お客様個別のニーズに合わせてのケア時間の確保。	<ul style="list-style-type: none"> ・短時間シフトの導入や業務改善における業務効率化を図ることによりお客様と個別に関われる時間を創出する。 ・地域行事へ参加し、地域住民との交流の場を作ることにより意欲の向上を図る。 	平成30年度中に実施
3	Ⅳ-37-14 Ⅳ-38-14	日々の業務に追われがちで利用者の希望の表出や自己決定支援への働きかけが少ない。	「お客様一人一人個性を尊重し、「出来ること」「出来ること」「出来ること」「出来ること」等が導き出せるような関係性を作る。	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の日課の中でお客様一人一人の生活リズムを把握し、今お持ちの力が十分に発揮でき、その方のペースに合わせて楽しみを持って生活して頂ける様支援していく。 	平成30年度中に実施